

Justice And Reason

2011年4月29日 たちばな 橘 きりゅう 木竜

死の雨が降り桜を冒し
夜が更けても毒牙に飲まれ
正義描いた旗を振り上げ
仲間と共に諭し始める

私を焼いた正義は黒々
流れ続け正義を燃やす
「裁き」と飾る妬みに向かって
光継いだ正義を構えて

正義の意味を問い直す
歪ませた茨を払い
沸き立つ胸をさらけ出し
死で染まる地を駆けましよう、さあ！

宵を越えても旗を掲げて
諭し続ける 毒牙に濡れて
笑う仲間が種を手に持ち
御月の周り光の環出た

正義の意味を問い直す
私でも決められないで
茨は絶えず生やされて
偽の意味咲き続けるわ、ああ！

死の雨還り降り敷く中から
白いままの町並み浮かび
教えを続け煮詰める動きも
あると冷えた瞳を燃やして

正義の意味を問い直す
決めつけず命の限り
とがった声を受け溶かし
正義へと近づきましよう、さあ！